

県内の企業や団体がそれぞれ地元の大学とコラボレーション（協業）し、新会社やイベントなどのロゴマークをデザインする事例が相次いでいる。学生

らしい斬新な発想を生かすとともに、若年層の注目を集める効果にも期待。学生にとっても仕事を体験する好機になるなど利点がある。（小川正貴）

県内企業や団体

ロゴデザイン 大学とコラボ

昨年12月初旬、ちゅう明し、質問などを受けた。ぎんフィナンシャルグループ 同社は同9月に設立し「Cキューブ・コ」ばかり。西原立社長は「北本町」で、同社の「地域課題を解決する仕事」について社員「お話ししたかった。学生と一緒が話した。学」と一緒に仕事ができること。生は県立大総社市窪木」と自身が財産になる」とデザイン学部の4人。社話す。

員ら約20人を前に、事前 今後も話し合いを続けるに用意した19の図案を説 共同で案を絞り、今春



Cキューブ・コンサルティングでデザインの意図などを説明する県立大の学生

新会社、イベント 斬新な発想生かす

までに決定する。

今年8月に岡山市で初開催する「おかやまSDGsフェア2023」（官民11機関でつくる実行委主催）では、岡山（同市北区津島中）のサークル「岡山DS（データサイエンス）部」がロゴを作成した。太陽や岡山の街並みを描き、SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標を象徴する色をあしらう。

フェアは、企業などがパネルや動画でSDGsの取り組みを紹介したり、商品を紹介したりする。「大学生や高校生に訪れてほしい。PRのため」粉末を使ったクライマー向けチョコレート「瀬戸内マ」を取り入れようと考案した」と、デザインを依頼した実行委。今後、同部が製造する。ロゴは倉敷芸術科学大（倉敷市連島町西之浦）の学生がデザインした。商品名は「S」「M」をかたどり、カキ殻をイメージして波線をいくつも配している。



カキ殻をイメージした「瀬戸内マグネシオ」のパッケージ



「おかやまSDGsフェア2023」のロゴマーク

商品開発の際、同大クラ イミング部に協力してもらった縁でロゴ作成を依頼。同大芸術学部内のコンペで、4年宮本楓さん(23)の作品が選ばれた。「納得のクオリティー。プロに依頼するのと比べコストも抑えられた」と同社。企業の商品デザインは初めてという宮本さんは「実際に売られるだけに、大学の課題とは違う難しさがあった。貴重な経験ができた」と話している。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。